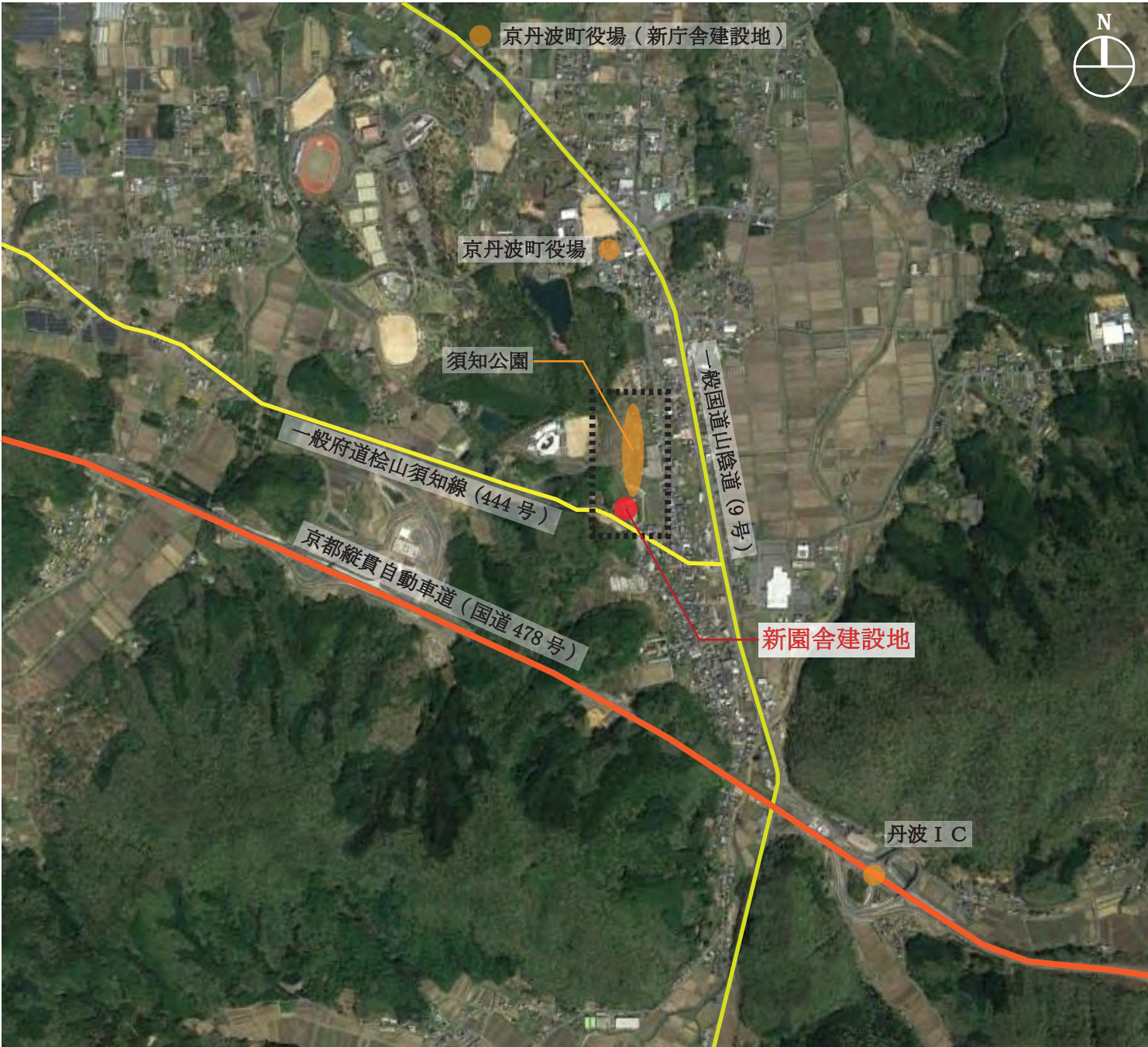


事業概要

現在、子育て世代に多様な働き方が広がる中、幼稚園でも預かり保育が実施されるなど、長時間利用のニーズが高まっており、全ての就学前児童に対し、平等な条件の基で幼児教育・保育を提供できる体制づくりが求められています。

本計画は、「京丹波町こども・子育て支援事業計画」、及び「京丹波町立（仮称）たんばこども園新園舎建設基本計画」に基づき、就学前教育・保育の充実を目的とし、施設の老朽化が課題である須知幼稚園と上豊田保育所、下山分園の統合園舎整備を行い、保護者や園児、関係者のニーズに応じた、園児の健やかな育ちと成長が促せる、京丹波町の特色を生かした「幼保連携型認定こども園」を整備することを目指します。

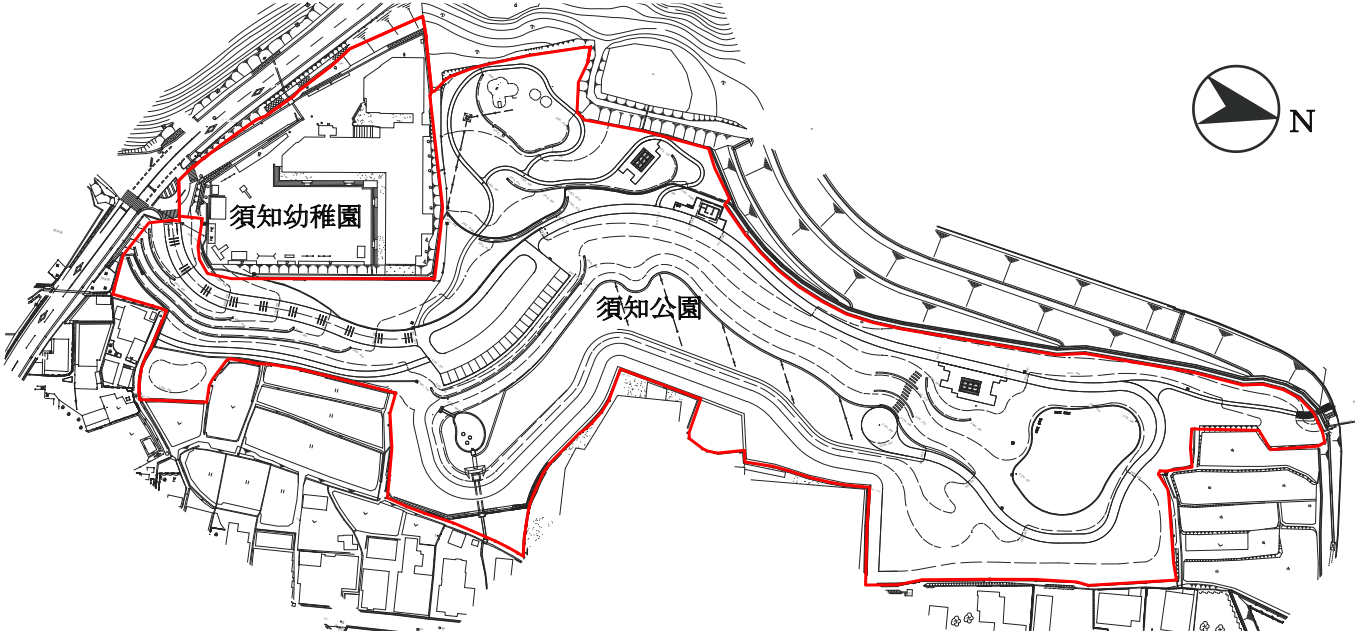


付近見取図

設計コンセプト

須知公園は京丹波町の緑豊かな都市公園であり、スポーツや散策、憩いの場として親しまれています。

この重要なアメニティに隣接した敷地を、こども園として計画するにあたり、下記の 2 つを設計コンセプトとし、より魅力あるこども園・公園となるように、相乗効果を発揮できる計画とします。



① 豊かな自然を活かした温かみのあるこども園

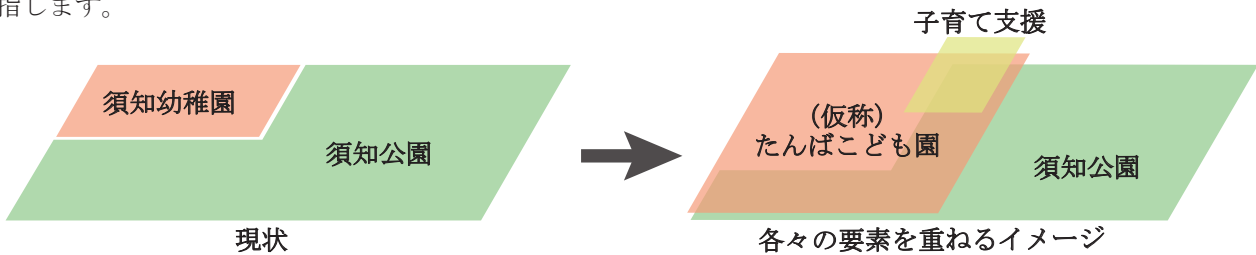
須知公園の豊かな自然を取り入れ、こども園と一体的に利用できる計画とすることにより、子ども達が自然と触れ合える機会を多く育みます。また、京丹波町産木材を園舎に使用し、木の香りが溢れる温かみのある建物として、京丹波町の豊かな自然の恵みを身近に感じることができる空間づくりを目指します。



② 地域給がかりの”子育て力”を活かせるこども園

本計画では、須知幼稚園と須知公園における現状の地形や利用状況を考慮しつつ、一体性が高められるよう、こども園と須知公園、子育て支援の各々の要素を重ね合わせる様に計画します。

こども園に子育て支援施設を併設して地域の子育て世代が集まる環境とし、須知公園に対してオープンな構えとすることにより、施設整備だけでなく利用、運用において相互に連携が図れる計画とします。公園に訪れる地域住民が子ども達の賑わいを感じ、子育て世代だけでなく、地域全体で子ども達を見守るこども園を目指します。



敷地条件

- ・所在地：京丹波町須知藤ノ森 34 ほか
- ・敷地面積：未定
- ・用途地域：指定なし
- ・防火指定：法 22 条区域
- ・隣地斜線：1.25
- ・道路斜線：1.5
- ・指定容積率：200%
- ・指定建ぺい率：60%
- ・敷地隣接道路：（南東側）一般府道桧山須知線（444 号）
幅員 8.70m
- ・その他：指定なし

配置計画



①須知公園と園庭を一体的に整備

本計画では、須知公園の一部をこども園の園庭として取り込み、広く園庭を確保します。また、公園側も園庭と一体的に整備し、遊具を配置することにより、子ども達の活動空間が須知公園まで広がる計画とします。加えて、公園利用者の環境改善を図ります。
園庭と公園の間に、セキュリティラインを設け、子ども達が安全に過ごせるよう、こども園のセキュリティを配慮します。

②回遊性のある車路を整備

現在、須知公園内の車路の出入口は 1ヶ所に整備されています。新園舎を計画するにあたり、送迎時など交通量が多くなる時間帯に混雑が予想されることから、そうした懸案を解消するために、敷地南西にある既存スロープから既存車路に繋げる車路をこども園全体を取り囲む様に計画します。
新たに整備する車路は一方方向の通行とすることにより、車の行き違いをなくし、安全でスムーズな送迎動線を計画します。

- 凡例
- ▲ こども園、子育て支援 出入口
 - ▲ 厨房出入口
職員出入口

③既存車路に沿った歩道を整備

こども園や公園への進入路は歩行者の安全に配慮し、歩道を整備することにより、歩車分離を図ります。

⑨職員室

こども園のセキュリティに配慮して、園庭、公園、駐車場、園舎、それぞれへの開口を設け、職員室から敷地全体を見通せる計画とします。

⑧子育て支援

こども園と公園が重なり合う位置に子育て支援を設けます。
こども園と内部で繋がり、公園に対して大きな開口を向けることにより、多くの地域住民に開かれた環境とします。そのことにより、利用が増え、交流が生まれ、地域の子育て力を育みます。こども園から子育て支援、須知公園まで切れ目のない連携を図ることにより地域で見守る環境を実現します。

⑩がけ地からの離隔を確保

万が一災害が起きた際、西側のがけ地倒壊等の影響に配慮して、園舎を東側に配置し、敷地西側のがけ地からの離隔を確保します。

⑦菜園スペースの整備

食育の一環として、子ども達が自ら作物を育てる菜園スペースを整備します。
菜園スペースを玄関付近に整備し、成長を見守る空間とします。

⑥地域で使える交流スペースを整備

正門前にイベント等に利用できる交流スペースを整備し、こども園と公園のどちらに対してもオープンで利用しやすい空間とします。

⑤利用目的に合わせた駐車場の整備

既存公園駐車場以外に新しい車路に沿って、職員や送迎、公園利用等の様々な利用目的に合わせた 3ヶ所の駐車場を設けます。

⑦3, 4, 5 歳ゾーン

保育室と園庭の間にデッキテラスを設け、大きな庇によって西日を遮ります。また、地面まで垂れ下がる屋根壁によって屋外との境界を協調することにより、雨天時にも気軽に出来る遊びの空間としても活用します。

今後の保育環境に合わせて職員が柔軟に対応できるよう、各保育室の間の間仕切り壁を可動式壁として計画することから、二部屋を一部屋にすることも可能です。

各保育室に DEN を設け、「自分たちの居場所」を整備します。

幼児用 WC は廊下に面して整備し、廊下からも園庭側のデッキテラスから入れる計画とします。

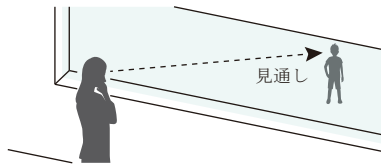
「DEN」
子どもが手を伸ばせば
壁や天井に触れること
ができる隠れ家的な雰
囲気の小空間



①職員室

子どもの安全性やセキュリティのために、園庭やメインエントランスの方向に向けて大きな開口を設け見通しを確保します。

エントランス側の開口は、来客時の窓口にもなるようカウンターを設ける計画とします。

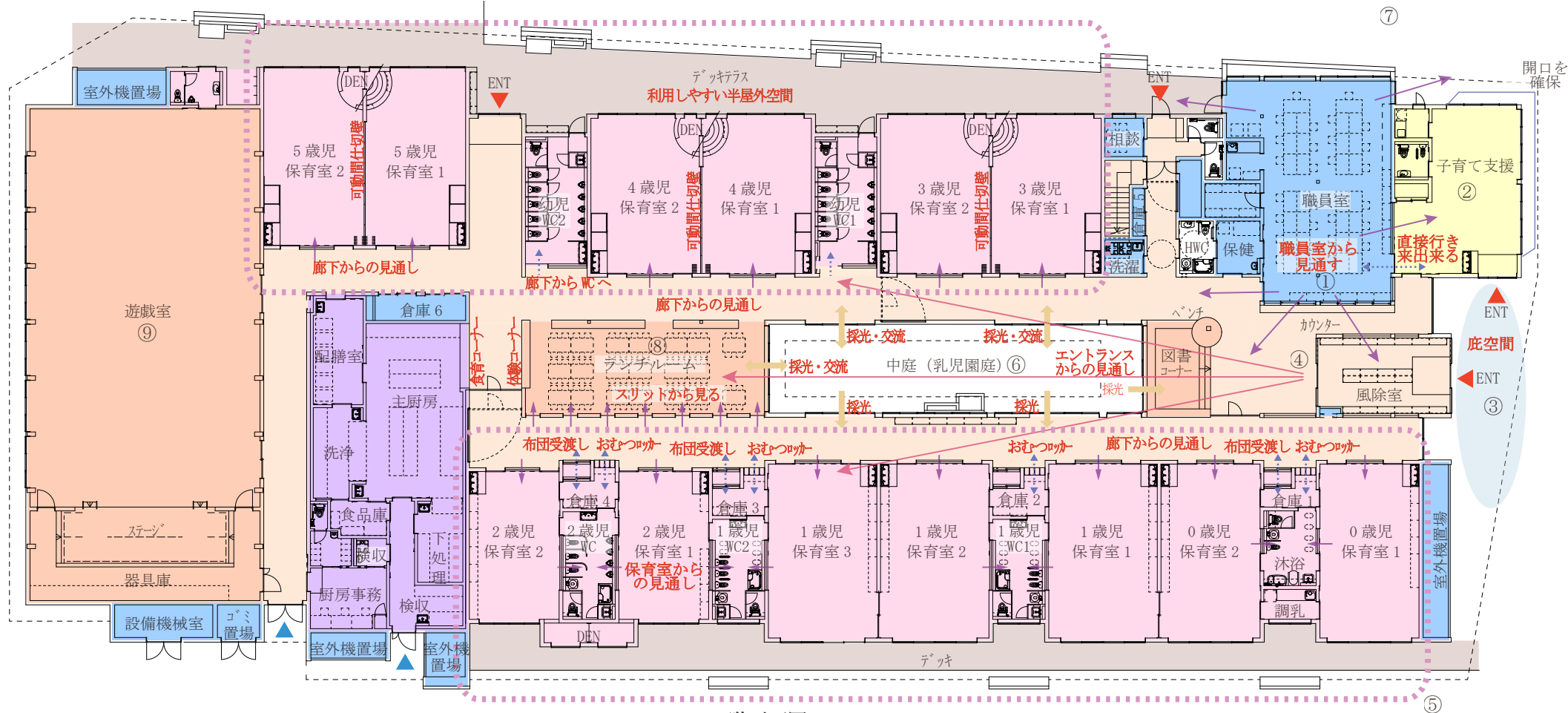


②子育て支援

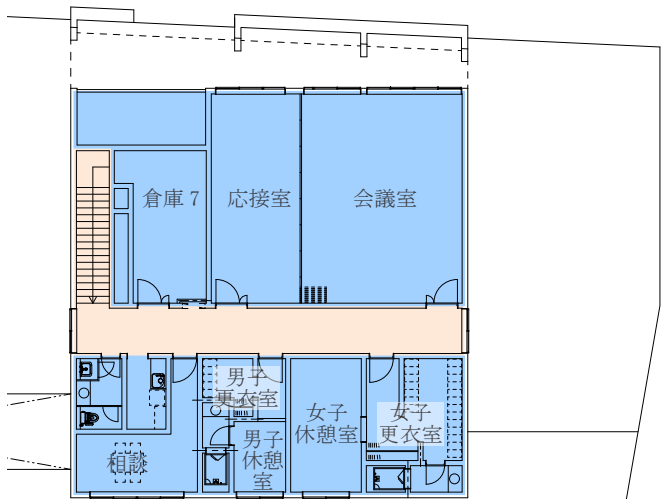
公園側に配置し、大きな開口を確保することにより、子育て支援を地域から認識しやすい計画とします。

入口をこども園とは分けて設けます。

職員室と直接出入りできる動線を確保し、こども園との連携を高めます。



1 階平面図



2 階平面図

建物規模	
建築面積	2,413.16 m ²
延床面積	2,361.30 m ²
1 階	2,113.30 m ²
2 階	248.00 m ²

⑨遊戯室

地域産木材を使用し、木造のフレームを表出させることにより木の香りが溢れる空間とします。

発表会等で利用できる、ステージを設けます。

ステージは子ども達の安全に配慮した高さとしします。

⑧ランチルーム

3～5 歳児が利用しやすいよう、幼児室側廊下に壁を設けず、家具で空間を区切る計画とします。

0～2 歳児にも様子が見えるよう、乳児室側廊下に縦スリットの開口を設けます。

ランチルームと主厨房の間には、調理、食べ物への興味や関心を高めるため、食育コーナーと体験コーナーを設け、内部の様子を観察したり、子ども達が自分達で育てた野菜を食べたりと、食の大切さを感じることが出来る空間とします。

⑥中庭（乳児園庭）

中庭を設け、建物内部への通風・採光に配慮します。

中庭を乳児園庭とすることにより、安全な遊び場を確保します。

中庭を介して、3～5 歳児との異年齢交流が行える計画とします。

⑤0, 1, 2 歳ゾーン

保育室を東向きに配置します。

各保育室の間の倉庫内に、おむつロッカーと布団収納を設けることにより、保護者が保育室に入らず廊下から直接受渡しができる計画とします。

乳児 WC、沐浴室、幼児 WC 内の様子が各保育室から見守れるよう、腰窓を設ける計画とします。

公園側に屋根壁を設けることにより、日よけ、風よけの役割を果たし、また遊びのスペースとしても活用します。

④エントランスホール

エントランスホールから、図書コーナー・中庭・ランチルームまでの見通しを確保し、園舎内部の広がりを感じる計画とします。

エントランスホールに面して図書コーナーを設け、子ども達が日常的に本に触れられる計画とします。

図書コーナーの横にベンチを設け、送迎に來た保護者の憩いの場とします。

③メインエントランス

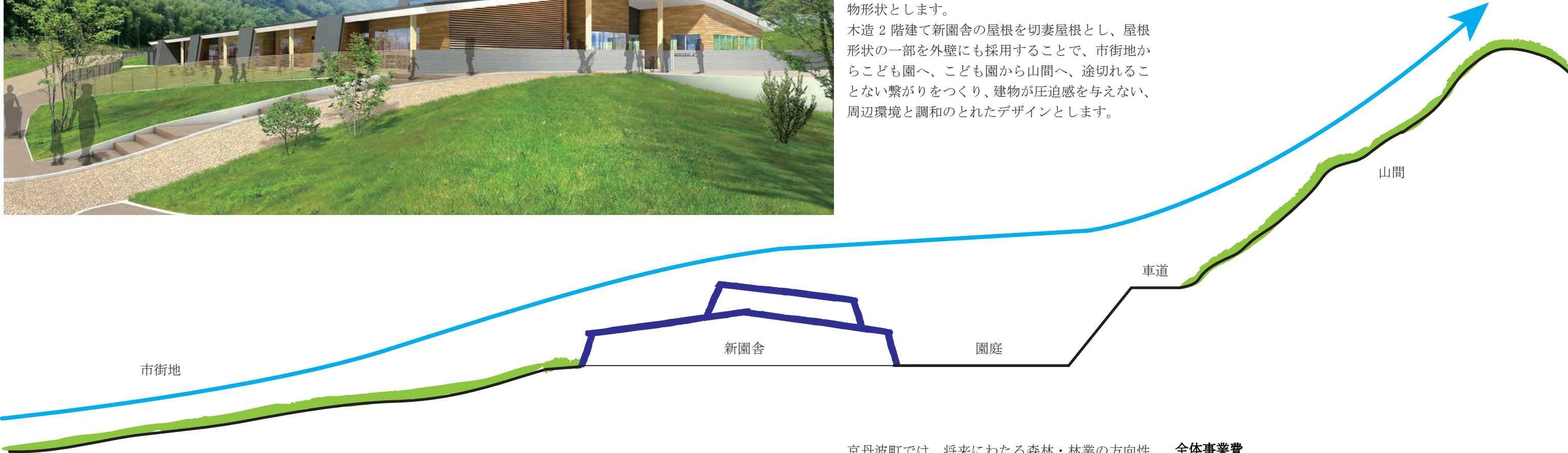
メインエントランス前に庇を設け、雨天送迎時にも対応します。

風除室を広く取り、子ども達の下駄箱の高さを低くすることにより、風除室の見通しを確保します。



本計画の対象地である須知公園周辺は、市街地から山間部へ差し掛かる場所に位置します。自然豊かな須知公園の環境の良さを取り入れ、眺望を守る為に、新園舎が稜線を遮る建物ではなく、市街地から山間まで続く美しい山の稜線に合わせた建物形状とします。

木造 2 階建て新園舎の屋根を切妻屋根とし、屋根形状の一部を外壁にも採用することで、市街地からこども園へ、こども園から山間へ、途切れることない繋がりをつくり、建物が圧迫感を与えない、周辺環境と調和のとれたデザインとします。



京丹波町では、将来にわたる森林・林業の方向性を示す「京丹波町森づくり計画」を定め、「健全な森林育成」「次世代への継承」「木づかい文化の確立」に取り組んでいます。

そこで、本計画では自然とのふれあいの場及び森林資源の有効利用を担うこども園を目指します。園舎には可能な限り京丹波町産木材を使用し、木づかい文化をつくりながら、次世代を担う子ども達が木材の良さを感じる計画とします。

普段利用する内部空間に木材を表出させることで、子ども達だけでなく、保護者や来園者が五感を使って木の温かみを感じることもできる計画とします。なお、外壁や内壁の化粧材、こども園の構造材に、京丹波町産材の杉材を使用します。

全体事業費

	工事項目	試算費
1	新園舎 本体工事費	910百万円
2	外構工事費	200百万円
3	既存園舎解体・撤去工事費	75百万円
4	設計費、監理費	77百万円
5	家具・備品工事費、その他	38百万円
	事業費合計	1300百万円